キャラクター名
月縹　澪（つきはなだ　みお）

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ハヌマーン	ワークス	ゼノスエージェントA	カヴァー	フリーター
オプショナル	オルクス	年齢	18	性別	男
覚醒	命令	衝動	自傷	初期侵食率	41 %
出自	義理の両親	経験	平凡への反発	邂逅	欲望表：喪失

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0		1	5
感覚	2		0			2
精神	2		0			2
社会	1		0			1

HP	32
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志		-5	調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：ゼノス	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

イノセントブレード	
デモンズシード	
エンブレム：貴種の接吻	
コネ：都築京香	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
強化兵	P	N		
都築京香	P 幸福感	N 隔意		
両親	P 同情	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセ：ハヌマーン	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果： Ｃ値-[Lv]								
縮地	4	2	ｵｰﾄ	-	-	-	-	
効果： 移動の際、シーンの任意の場所に移動する　シナリオ[Lv]回								
バックスタブ	5	-	ｵｰﾄ	-	-	-	ﾘﾐｯﾄ	
効果： 縮地を使用した際、白兵攻撃の攻撃力+[Lv*5] 浸食値でレベルアップしない 基本浸食＋4								
電光石火	2	3	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	【肉体】	-	
効果： 【肉体】【感覚】ダイス＋[Lv+1]　ＨＰを1D失う								
援護の風	2	2	ｵｰﾄ	-	-	-	-	
効果： 判定ダイス+[Lv]　ラウンド１回								
ウエポンマウント	3	-	常時	-	-	-	-	
効果： [Lv*5+5]のアイテムを常備化（ｲﾉｾﾝﾄﾌﾞﾚｰﾄﾞを選択）　イニシアチブで装備できる　基本浸食+2								
七色の声	★							
効果： 声すごいですね								
高濃度酸素バブル	★							
効果： あわ								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

【設定】
「FHを抜けたことに後悔は無いよ。ここには……あの人がいるから」
「この髪は……あの人がただ一度だけ、綺麗だと言ってくれたから……あまり切りたくないんだ。」
「……都築さん……」

ゼノスに所属するエージェント。
ファルスハーツに所属していたが、都築京香にゼノスへ誘われたことで離脱した。
彼女からは殺しの才能を持っていると言われているが、それについては半信半疑。

一件女子のように見えるが、れっきとした男子。
日本の一般家庭に生まれたが、女子を求めていた家庭に男子として生まれてしまったことで、
彼は女の子のような見た目で、女の子のように振る舞うことを強制されていた。
その頃の経験から、彼の精神は不安定なものとなってしまった。

そんなことから学校でもいじめに遭い、家にも学校にも居場所のない暗闇の日々を過ごしていたが、
彼の住んでいた町はUGNとFHのオーヴァードたちの戦いに巻き込まれ、建物はすべて瓦礫の廃墟と化し、
家族やクラスメイトなど、彼の周囲の人間は一人残らず死んでしまう。
その際に生き残った彼を拾ったのが、FH時代の都築京香である。
彼女の手によって彼はオーヴァードとして覚醒し、FHに加入した。

FH時代の都築京香から直々に指導を受けたことが数度あり、最後の指導の時にイノセントブレードを貰った。
たったそれだけのことだが、並みのオーヴァードよりも遥かに自分のレネゲイドをうまく扱うことが出来るようになった。